

『リベラルアーツ学群プログラム履修モデル集』について

リベラルアーツ学群では、2年次春学期から、専門科目の履修が本格的に始まります。この履修モデル集は、みなさんが専門科目の履修を行っていくためのガイドとして編集したものです。

履修モデル集は、各プログラムの「履修の手引き」と「履修モデル」から構成されています。

●履修の手引き

- ・「履修の手引き」には、各プログラムから履修のしかたについてのメッセージが載せられています。ある程度自分の志望するプログラムが絞れている人は、それらのメッセージを参考にして履修を行って下さい。
- ・特に、プログラムのカリキュラムが、先修条件が設定されていて履修順序に留意する必要があるのか、比較的自由に履修できるのかで、1・2年次の望ましい履修のあり方が違ってきますので、その点を注意するようにして下さい。

●履修モデル

- ・「履修モデル」とは、各プログラムの科目をどのように履修していったらよいかを、例として示したものです。各プログラムを修了するためにはメジャー32単位、マイナー16単位の科目を修得することが必要ですが、どのプログラムも、それを上回る数の科目を提供しており、みなさんが、その専門分野の中でさらにテーマを絞った履修ができるようになっています。「履修モデル」とは、そうしたテーマの例にそったカリキュラムを示したものです。
- ・各プログラムの「履修モデル」ページには、そのプログラムの全科目をカテゴリーとレベルに応じて分類表示したマトリックスを記載しています。その中で「◎」のついている科目はメジャーの必修科目(教職モデルの場合は、教科に関する科目の必修科目)です。また、「○」のついている科目は、その履修モデルに該当する推奨科目です。
- ・また、「その他の推奨科目」には、そのプログラム科目以外のお勧めの科目を記載してあります。
- ・リベラルアーツ学群には、30のプログラムがありますが、この冊子には、各プログラムから提示された「履修モデル」が掲載されています。自分の関心あるプログラムの「履修モデル」をよく読んで、科目履修の参考にして下さい。

この『履修モデル集』は、みなさんが自分の学習計画を立てる際の目安として作成したものであり、モデルのとおり履修することを義務付けているわけではまったくありません。むしろ私たちは、みなさんが、Independent Learnerとして、自分の関心と視点に立って、独自の「履修モデル」を作成することを期待しています。

リベラルアーツ学群の科目編成はきわめて自由であり、内容を絞る、いろいろな分野を組み合わせる、その専門分野のさわりを学ぶ、など、さまざまな組み立て方が可能です。ぜひみなさんも、独自のテーマ性をもって自分の学習に取り組んでいって下さい。そして、「履修モデル」を通じたリベラルアーツ学群ならではの新しい学びの世界を、ともに切り開いて行きましょう。

言語教育プログラム

履修のしかた

言語教育プログラムの科目は、一般的な言語教育や学校・家庭教育に関する科目で構成されている共通科目と、英語・中国語・国語・日本語の各言語に関する科目群から構成されています。このプログラムをメジャーにする学生は、必修科目である「言語教授法原論」に加え、共通科目から 10 単位以上、各言語に関する科目から 20 単位以上を取得し、最終的に合計 32 単位以上を取得する必要があります。マイナーの学生は、共通科目から 6 単位以上、各言語に関する科目から 8 単位以上を取得し、最終的に 16 単位以上を取得する必要があります。

★履修すべき科目

共通科目の「言語教授法原論」は本プログラムをメジャーにする学生にとっては必修科目となっていますので、できるだけ早い時期に履修して下さい。また、共通科目の「第二言語習得法」と「国際コミュニケーション」などの言語教育に関係の深い科目に加えて、学校教育や家庭教育に関わる科目も積極的に履修して下さい。また英語・中国語・国語の教職課程に登録している学生は各言語の教科に関する科目を、日本語教師を目指す学生は、日本語教員養成課程で指定されている科目を早い段階から計画的に履修するようにして下さい。日本語教育関連科目については、日本語教員養成課程の登録生のみ履修可の科目が複数あるため、履修前に課程登録する必要があります。

★履修上の注意

英語・中国語・国語の教員免許や日本語教員養成課程の修了証明書を取得する場合には、それぞれの免許・証明書によって要件が異なるため、注意が必要です。各課程の履修ガイドで、履修に必要な科目を必ず確認し、計画的に履修するようにして下さい。

★履修モデル:

- ①英語教職課程向け履修モデル
- ②中国語教職課程向け履修モデル
- ③国語教職課程向け履修モデル
- ④国内外の日本語教育機関における日本語教師志望者向けの履修モデル
- ⑤年少者日本語教育を中心に学ぶ学生向けの履修モデル

他のプログラムとの関係

言語を教えるためには、その言語・コミュニケーションに関する十分な知識が必要です。同時に、各言語・教科に関わる教え方や、学習者の多様性(年齢・心理・環境等)に関わる様々な社会問題を批判的かつ客観的に考察する力が求められます。そのため、言語教育に関わる分野は、言語学・文学・心理学・コミュニケーション学・文化人類学・社会学・教育学・国際協力・多文化共生・日本研究・科学コミュニケーションなど多岐にわたります。それぞれが関心をもつ言語教育の現場には、どの分野が強く関連するかを熟慮し、履修計画を立てることをお勧めします。

留学・教職その他

★留学:LAGO プログラムやその他の長期・短期プログラムへの積極的な参加を強く勧めます。ただし、教職課程の学生は2年次春学期より教科教育法の履修が始まるので、留学の時期は慎重に決めるようにして下さい。

★教職:中学校・高等学校教諭 1 種免許「英語」「中国語」「国語」の取得が可能です。英語・中国語・国語の教職課程に関しては「教育の基礎的理解に関する科目」等と各「教科及び教科の指導法に関する科目」を『履修ガイド』で確認して下さい。

★日本語教員養成課程:45 単位または 26 単位コースの修了証明書の取得が可能です。日本語教師を目指す学生は日本語教員養成課程において指定されている科目を確認して下さい。

学生へのメッセージ

言語教育プログラムは、将来国内外において言語教育に携わるための基盤となる知識と技能を修得することを目的としています。また国際的な場で活躍を考えている人にとっても、自らの言語や文化に加え、他の言語や文化について学び、グローバル化し、多様化する現代社会において活躍するための知識を得ることができます。

言語教育プログラムでは、言語教育や言語習得、学校や家庭での教育に関する基礎的な知識を確実なものにすると同時に、英語・中国語・国語・日本語教育の分野に特化した専門的な知識を得ることを目指して下さい。また、英語と中国語の教員免許の取得を目指している学生は外国語科目の英語工

レクティブや中国語の科目を履修して、自らの英語力や中国語力を高める努力を積極的に行ってください。

言語教育プログラム

英語教職課程向け履修モデル

中学校・高等学校の英語の教員職員免許状(中高)取得を目指す人のための履修モデルです。英語の教員免許を取得するためには、言語としての英語について深く学び英語教育関連の科目を履修するとともに、高い英語運用能力を身につけることが求められます。英語の教員職員免許状取得を目指す場合、言語教育プログラムをメジャーとして、言語学プログラムまたは文学プログラムをマイナーもしくはダブルメジャーとして履修することをお勧めします。また、教員職員免許状取得のためにはプログラムのメジャー・マイナー修了要件を充足させるだけでなく、教職課程で定められた所定の単位を修得することが必要ですので注意をしてください。言語教育プログラムの学修としては、早い時期に必修科目の「言語教授法原論」を履修してください。その後は英語の「教科に関する専門的事項」を中心に「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」の各分野の学修を進めてください。これらの学びを通じて、英語学・英語文学・英語圏文化に関する知識を総合的に深めるとともに、高いレベルの英語運用能力を身につけることが重要になります。また、英語総合演習と英語エレクトティブの履修に関しては履修ガイドの教職課程のページを参照すること。

言語教育プログラム(英語)科目

Level カテゴリ	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
共通科目	◎	言語教授法原論	2		国際コミュニケーション	2	○	第二言語習得法	2			
					キリスト教と教育	2						
					家庭と教育	2						
					教育・学校心理学	2						
基礎科目		英語総合演習ⅠA	2		英語総合演習ⅡA	2						
		英語総合演習ⅠB	2		英語総合演習ⅡB	2						
英語学	◎	英語学概論	2	○	英語の意味	2	○	英語の構造	2			
	○	英語の文法Ⅰ	2	○	英語の歴史	2						
	○	英語の文法Ⅱ	2	○	応用言語学	2						
	◎	英語の音声	2	○	日英対照言語学	2						
英語文学	◎	英米文学史Ⅰ	2		現代作家研究(英米文学)	2	○	英米詩A	2			
	◎	英米文学史Ⅱ	2		英米児童文学	2		英米詩B	2			
								英米演劇	2			
								○ 英小説A	2			
英語コミュニケーション								英小説B	2			
								○ 米小説A	2			
								米小説B	2			
異文化理解				◎	Oral Communication Skills	4	◎	English for Academic Purposes	2		翻訳(日→英)	2
				◎	Written Communication Skills	4					通訳	2
					翻訳(英→日)	2						
異文化理解				○	アメリカの文化	2						
				○	イギリスの文化	2						
				○	英米文化講読	2						

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

- ・ 英語エレクトティブII-中級(Core Building-Listening)[1]
- ・ 英語エレクトティブII-中級(Core Building-Speaking)[1]
- ・ 英語エレクトティブII-中級(Core Building-Reading)[1]
- ・ 英語エレクトティブII-中級(Core Building-Writing)[1]
- ・ 英語エレクトティブIII-上級(Career Studies)[1]
- ・ 英語エレクトティブIII-上級(Global Issues)[1]
- ・ 英語エレクトティブIII-上級(Current Affairs)[1]
- ・ 英語エレクトティブIII-上級(Academic Reading and Writing)[1]
- ・ 英語エレクトティブIII-上級(Academic Study Skills)[1]
- ・ 英語エレクトティブIII-上級(Discussion Skills)[1]
- ・ 英語エレクトティブIII-上級(Language and Culture)[1]
- ・ 英語エレクトティブIV-特設[1]
- ・ 英語エレクトティブV-特設[1]
- ・ ことばの比較[2]
- ・ 異文化コミュニケーション[2]
- ・ 専攻演習Ⅰ[2]
- ・ 専攻演習Ⅱ[2]
- ・ 卒業論文[4]

言語教育プログラム

中国語教職課程向け履修モデル

このプログラムは中国語の教育職員免許状(中高)取得を目指す人のための履修モデルです。中国語の教育職員免許状取得を目指す場合、この言語教育プログラムをメジャーとして、文学プログラムまたは言語学プログラムをマイナーとしてそれぞれ履修することをお勧めします。ただし、免許状取得のためにはプログラムのメジャー・マイナー修了要件を充足させるだけでなく、教職課程で定められた所定の単位を修得することが必要ですので注意してください。

言語教育プログラムの学修としては、必修科目の「言語教授法原論」を早い段階で履修すると同時に、その他の共通科目を履修してください。その後は中国語の「教科に関する専門的事項」を中心に「中国語学」「中国文学」「中国語コミュニケーション」「異文化理解」の各分野の学修を進めてください。これらの学びを通じて、中国語学・中国文学・中国文化に関する知識を総合的に深めるとともに、高いレベルの中国語運用能力を身につけることが重要になります。

言語教育プログラム(中国語)科目

Level カテゴリ	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
共通科目	◎	言語教授法原論	2		国際コミュニケーション	2		第二言語習得法	2			
					キリスト教と教育	2						
					家庭と教育	2						
					教育・学校心理学	2						
					家族社会学	2						
中国語	◎	中国語学概論	2		中国語の諸相	2						
	◎	中国語の文法	2	○	中国語学研究A	2						
	◎	中国語の音声	2	○	中国語学研究B	2						
中国文学	◎	中国文学概論	2					中国近現代文学・中国語圏文学研究A	2			
	○	中国古典文学史 I	2					中国近現代文学・中国語圏文学研究B	2			
	○	中国古典文学史 II	2									
	○	中国近現代文学・中国語圏文学史 I	2									
	○	中国近現代文学・中国語圏文学史 II	2									
中国語 コミュニケーション	○	中国語コミュニケーション技法 I	2	○	日中翻訳技法 I	2						
	○	中国語コミュニケーション技法 II	2		日中翻訳技法 II	2						
				○	日中通訳技法 I	2						
					日中通訳技法 II	2						
					中国語表現技法 I	2						
					中国語表現技法 II	2						
異文化 理解	○	中国文化概論	2	○	中国文化研究A	2		中国地域研究A	2			
				○	中国文化研究B	2		中国地域研究B	2			

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

- ・ 中国思想概論〔2〕
- ・ 中国思想研究〔2〕
- ・ 中国語文言文・漢文入門〔2〕
- ・ 中国古典文学研究A〔2〕
- ・ 中国古典文学研究B〔2〕
- ・ 専攻演習 I 〔2〕
- ・ 専攻演習 II 〔2〕
- ・ 卒業論文〔4〕

言語教育プログラム

国語教職課程向け履修モデル

高等学校の、また中学校の国語の教育職員免許状の取得を目指す場合、言語教育をメジャーに、文学または言語学をマイナーに学修することをお勧めします。その際に教職に関する「教職入門」等の科目と共に、早い時期に必修科目の「言語教授法原論」を履修して下さい。その後は「教科に関する専門的事項」を「国語学」「国文学」「漢文学」の分野から、必修科目を中心にした広い学びを進めます。その学びを通じて、高度な専門的な知識を修得できるように努めて下さい。なお、中学校の教育職員免許状の取得には、「書写」が必修になっています。履修モデルには幾つかのパターンが考えられるので、これを一例に自分の考えに合った履修計画を立てて下さい。

言語教育プログラム(国語)科目

Level カテゴリ	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
共通科目	◎	言語教授法原論	2		国際コミュニケーション	2		第二言語習得法	2			
					キリスト教と教育	2						
					家庭と教育	2						
					教育・学校心理学	2						
					家族社会学	2						
国語学	◎	日本語学概論	2		日本語の多様性と社会	2		日本語史	2			
	○	日本語の文字・表記	2		意味論	2		言語から考える日本文化	2			
	○	日本語の語彙・意味	2		日本語の文法	4						
	◎	日本語の音声	2									
	◎	日本語表現	2									
		多文化共生とやさしい日本語	2									
国文学	◎	日本古典文学史	2	○	古代文学講読	2	○	平安文学特論	2			
	◎	日本近代文学史	2	○	平安文学講読	2		中世文学特論	2			
				○	中世文学講読	2	○	江戸文学特論	2			
				○	江戸文学講読	2		近代文学特論	2			
				○	近代文学講読	2		平安文学の世界	2			
							○	中世文学の世界	2			
								江戸文学の世界	2			
漢文学					中国思想概論	2		中国思想研究	2			
				◎	中国語文言文・漢文入門	2	○	中国古典文学研究A	2			
							○	中国古典文学研究B	2			
書道	○	書写	2		書道研究Ⅰ	2						
					書道研究Ⅱ	2						

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

- ・ 国語・漢字演習Ⅰ〔2〕
- ・ 国語・漢字演習Ⅱ〔2〕
- ・ 編集研究〔2〕
- ・ 創作研究〔2〕
- ・ 現代作家研究(日本文学)〔2〕
- ・ 現代作品研究(日本文学)〔2〕
- ・ 人文探究(児童文学を読む)〔2〕
- ・ 専攻演習Ⅰ〔2〕
- ・ 専攻演習Ⅱ〔2〕
- ・ 卒業論文〔4〕

言語教育プログラム

国内外の日本語教育機関における日本語教師志望者向けの履修モデル

将来、国内外の日本語教育機関で、大人の日本語学習者(留学生等)を対象に、日本語を教える仕事に携わりたいと考えている学生向けの履修モデルです。日本語教育の現場では、日本語の発音・文字・文法・会話の特徴に関する知識、これらを学習者に教える技術(教授法)や評価の方法を修得することに加え、言語・文化・宗教等、さまざまな面で多様な学習者の背景を理解することが求められます。海外で日本語を教えたいと考えている人は、赴く国で話されている言語と合わせて学び、「日本語教育実習(海外)」にもチャレンジしてみると良いでしょう。

メジャー・マイナーの組み合わせとしては、例えば①言語教育(メジャー)・言語学(マイナー)、②言語教育(メジャー)・コミュニケーション学(マイナー)、③言語教育(メジャー)・文化人類学(マイナー)など、さまざまなパターンが考えられます。関心のある日本語教育現場とつながる分野と組み合わせ、学んでいきましょう。なお、日本語教員養成課程の修了証明書の取得については、同課程の修了要件を必ず確認して、計画的に履修をしていきましょう。

言語教育プログラム(日本語教育)科目

Level カテゴリ	100		200		300		400	
	推奨	科目名 単位	推奨	科目名 単位	推奨	科目名 単位	推奨	科目名 単位
共通科目	◎	言語教授法原論 2	○	国際コミュニケーション 2	◎	第二言語習得法 2		
			○	キリスト教と教育 2				
			○	家庭と教育 2				
			○	家族社会学 2				
国語学・日本語教育共通科目	○	日本語学概論 2	◎	日本語の多様性と社会 2		言語から考える日本文化 2		
		日本語の文字・表記 2		意味論 2		日本語史 2		
		日本語の語彙・意味 2	○	日本語の文法 4				
		日本語の音声 2						
		多文化共生とやさしい日本語 2						
情・日本語教育事	◎	日本語教育学A 2	◎	日本語教育文法 2		日中対照言語学 2		
	◎	日本語教育学B 2		言語データ分析 2				
法・日本語教授研究				多言語交流演習 2	◎	日本語教授法 4		
						日本語教材開発 2		
					○	マルチメディア日本語教育 2		
日本語実践教育						年少者日本語教育 2	○	カリキュラムデザイン(日本語教育) 2
						◎	日本語の評価法 2	日本語教育実習(海外) 2~4
						◎	日本語教育実習(国内) 4	

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

- ・ 地域サービスラーニング(多文化学生協働学習)
- ・ ことばの比較〔2〕
- ・ 多文化共生とコミュニケーション〔2〕
- ・ 異文化コミュニケーション〔2〕
- ・ 多文化共生の人類学〔2〕
- ・ 言語政策論〔2〕
- ・ 学習・言語心理学〔2〕
- ・ 日英対照言語学〔2〕
- ・ 専攻演習Ⅰ〔2〕
- ・ 専攻演習Ⅱ〔2〕

言語教育プログラム

年少者日本語教育を中心に学ぶ学生向けの履修モデル

日本語指導を必要とする児童生徒の数が年々増加しています。この履修モデルは、こうした年少者の日本語教育に携わりたいと考えている学生向けのモデルです。子どもを対象とする日本語教育の現場では、子どもの言語習得に関する理解と発達段階に応じた指導が求められます。そのため、外国語・第二言語としての日本語の仕組みに関する知識を構築し、同時に、子どもの母語・母文化、宗教、家庭環境、子どものアイデンティティ等、子どもの教育を取り巻く多様な側面について理論と実践を踏まえて学びを深めていきます。1年次には実践基礎科目の「地域サービスラーニング」で多文化共生や子どもと教育に関わる活動を行うと良いでしょう。

メジャー・マイナーの組み合わせの例としては、言語教育(メジャー)・教育学(マイナー)が挙げられます。教職を目指す学生のみなさんは特に、各教科に関する専門知識と合わせて日本語教育学を学ぶことで、教科と日本語の統合学習に関わる指導方法を身につけていくことができるでしょう。なお、日本語教員養成課程の修了証明書の取得については、同課程の修了要件を必ず確認して、計画的に履修をしていきましょう。

言語教育プログラム(日本語教育)科目

Level カテゴリー	100		200		300		400	
	推奨 科目名	単位	推奨 科目名	単位	推奨 科目名	単位	推奨 科目名	単位
共通科目	◎ 言語教授法原論	2	○ 国際コミュニケーション	2	◎ 第二言語習得法	2		
			○ キリスト教と教育	2				
			○ 家庭と教育	2				
			○ 教育・学校心理学	2				
			○ 家族社会学	2				
教育学・日本語 共通科目	○ 日本語学概論	2	◎ 日本語の多様性と社会	2	言語から考える日本文化	2		
	日本語の文字・表記	2	意味論	2	日本語史	2		
	日本語の語彙・意味	2	日本語の文法	4				
	日本語の音声	2						
	日本語表現	2						
情日本 析・日本語 教育分事	◎ 日本語教育学A	2	◎ 日本語教育文法	2	日中対照言語学	2		
	◎ 日本語教育学B	2	言語データ分析	2				
法・日本語 教材研究			多言語交流演習	2	◎ 日本語教授法	4		
					日本語教材開発	2		
					○ マルチメディア日本語教育	2		
日本 実践 教育					○ 年少者日本語教育	2	カリキュラムデザイン(日本語教育)	2
					◎ 日本語の評価法	2	日本語教育実習(海外)	2~4
					◎ 日本語教育実習(国内)	4		

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

- ・ 地域サービスラーニング(多文化共生)[2]
- ・ 地域サービスラーニング(子どもと教育)[2]
- ・ ことばの比較[2]
- ・ 多文化共生とコミュニケーション[2]
- ・ 国際人権法[2]
- ・ 言語政策論[2]
- ・ 異文化理解教育[2]
- ・ 教育心理学(教職課程)
- ・ 専攻演習Ⅰ[2]
- ・ 専攻演習Ⅱ[2]